

こうほう ショッキング

Vol.59

Kōhō shocking



ます だ けん いち

増田健一さん

●プロフィール

65歳。美津島町加志出身、厳原町久田在住。農林業を営む家庭の長男に生まれる。農民道場で2年間研修を受け、家業を手伝った後、大阪の会社に2年間勤務。24歳で帰郷。勤務先で重機の操作に携わったことがきっかけとなり「増田クレーン」を起業。地域交通安全活動推進委員としても活動し、対馬のドライバーに安全運転を呼びかけている。奥様と長男の3人暮らし。

○クレーンの作業でどのようなものを作られるのですか？

建築物が主です。ビルや学校の校舎、厳原港の防波堤にも携わりました。起業当時クレーンは台数が少なく、特に大型の車両はうちの1台のみだったこともあり、建築ラッシュだった時代は需要も多く引つ張りだこでしたね。

○最近携わった作業で思い入れの深いものは？

厳原港に完成した「志賀ノ鼻大橋」ですね。工法も素晴らしいですが、完成した橋からの風景もきれいですよね。愛用してくださる方々の姿を見る時、「ああ、この仕事に携わって良かった」と本当に思いますし、後世に残せるものを作ったという誇りを噛みしめます。私自身がそう思うのですから、自分の子どもにもその思いを感じさせたい。今は、息子が一緒に仕事をしていますから、きつと同じ思いで作業をしていることと思います。

○建築を通して対馬を見てもられたと思いますか？

会社を立ち上げた頃は対馬も景気が良く、建築物も数多く作られた時代でした。全体的に落

ち込んだのは、10年くらい前でしょうか。同業者の方もずいぶん苦しまれて…。うちも小さい会社ですので苦労ももちろんありましたが、身の丈に合った規模で地道に仕事をさせていたいただきました。地元業者の方々との繋がりがあって、今があると感謝しています。

○対馬で大切なことは何でしょう？

『人との繋がり』
この一言に尽きるのではないでしょう。仕事もそうですが、人生にはめぐり合いがとも大切だと感じます。力になったり、なつてもらったり。仕事を通じて出会った方と、今ではそれを越えたお付き合いをさせてもらえているのは本当に幸せですね。

○地域の交通安全活動にも関わっておられますが、対馬の運転手のマナーはいかがですか？

相変わらず減らないのが、「運転中の携帯電話の使用」と、「飲酒運転」です。残念なことですが「これぐらい大丈夫だろう」とか「ちよつとだから」という過信が事故に繋がります。事故を起こしてしまつたら、自分の人生だけでなく、自分の家族や相手の人生をも変えてしまうこと

になりかねません。ハンドルを握る責任を持って、安全運転をお願いします。

○お忙しい毎日ですが、気分転換はどのように？

農家の出身ですから畑仕事も好きで、昔はミニ耕運機を買って畑を作り、家庭菜園も。でも14年前に家を建てて、畑をつぶしたんです。その時に庭を造つたのがきっかけで、今は庭木の手入れが趣味ですかね。自分で剪定もします。もつと庭木を植えて庭を造りこんでいきたいんです。家族の意見もありま

すし、ね(笑)。

○仕事が一息ついたら、したいことは？

温泉旅行に行きたいですね。今一緒にお仕事をしている事業者さんたちとも話してるんです。仕事を終えた達成感を噛みしめながら、次への活力と、皆さんの繋がりを深める旅になつたらと思つて、今から楽しみです。

毎回、登場してくださった方に次の方をご紹介いただくこのコーナー。今回は厳原町上槻にお住まいの松本平治さんです。お楽しみに。